

# 大隅地域感染症情報 2018

第32週報（8月6日～8月12日）  
大隅地域振興局保健福祉環境部

## ○定点医療機関からの定点当たり報告数

- ・鹿児島県全体に手足口病警報が発令されていますが、減少傾向です。
- ・鹿屋保健所管内において、感染性胃腸炎が増加傾向です。夏場は細菌による胃腸炎や食中毒が増加しますので、手洗いに加え食べ物の取扱いにも十分注意してください。

疾病	警報レベル 開始/終息 基準値	注意報 基準値	鹿屋保健所管内推移				志布志保健所管内推移				大隅全体	県全体
			29週	30週	31週	32週	29週	30週	31週	32週	32週	31週
インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	0.25	0.13	0.00	0.00	0.00	0.40	0.00	0.00	0.00	0.12
RSウイルス感染症	-	-	1.40	1.60	3.20	2.20	0.67	2.67	0.33	0.33	1.50	2.31
咽頭結膜熱	3.00/1.00	-	0.60	0.40	0.20	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.91
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	-	2.00	1.00	0.60	0.60	0.33	0.33	3.00	0.67	0.63	2.17
感染性胃腸炎	20.00/12.00	-	4.00	5.20	6.40	8.20	4.33	8.67	6.33	4.67	6.88	7.43
水痘	7.00/4.00	4.00	0.00	0.20	0.20	0.40	0.00	0.00	0.33	0.00	0.25	0.26
手足口病	5.00/2.00	-	1.40	0.60	1.80	1.20	3.00	2.00	1.33	0.67	1.00	2.07
伝染性紅斑	2.00/1.00	-	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.04
突発性発疹	-	-	0.60	0.40	1.00	0.60	0.33	0.33	0.00	0.00	0.38	0.50
ヘルパンギーナ	6.00/2.00	-	0.60	1.60	0.00	0.40	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.35
流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	0.40	0.20	0.60	0.00	0.00	0.00	0.67	0.33	0.13	-

■ 警報基準値以上      ■ 注意報基準値以上

## ○手足口病について ※鹿児島県全体に流行発生警報発令中 【警報開始基準値 5.00, 警報終息基準値 2.00】

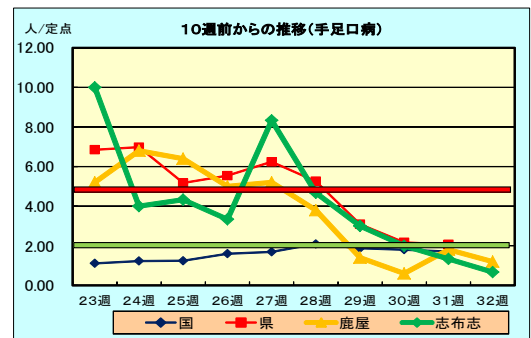
手足口病の発生状況は、

鹿屋保健所管内からは6名（定点当たり報告数 1.20）の報告があり、**県全体としての流行発生警報を発令中**です。

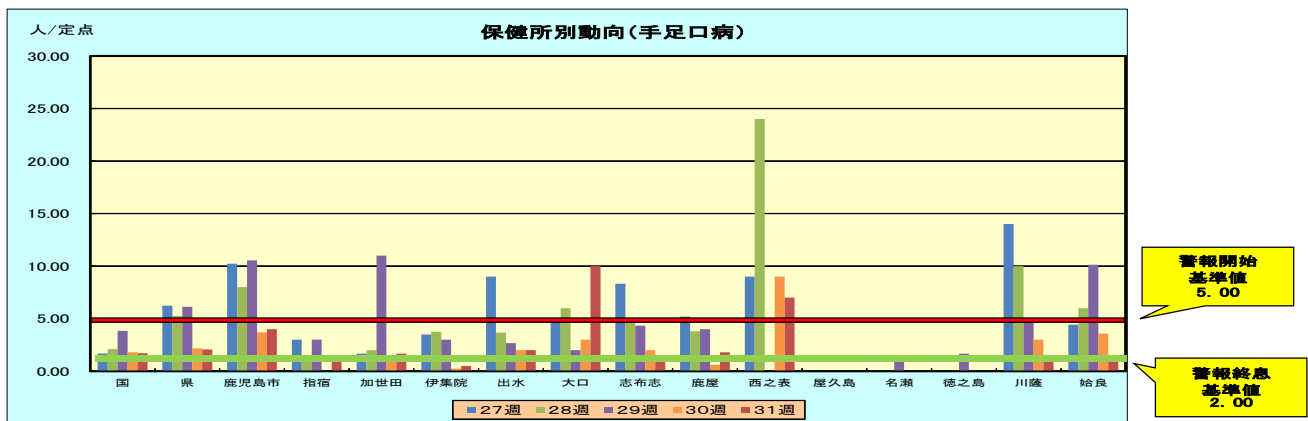
志布志保健所管内からは2名（定点当たり報告数 0.67）の報告があり、**県全体としての流行発生警報を発令中**です。

年齢別では、2歳が最多でした。

（手足口病一図1）※第32週は鹿屋・志布志のみ掲載



（手足口病一図2）県内保健所別手足口病報告



## ○感染性胃腸炎について

【 警報開始基準値 20.0, 警報終息基準値 12.0 】

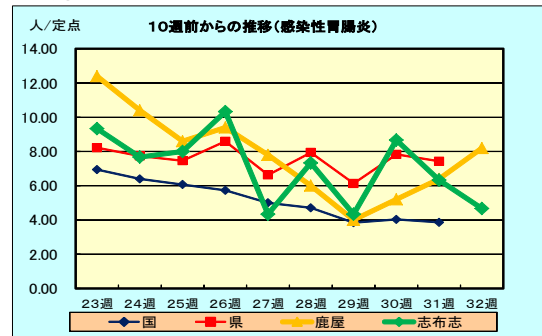
感染性胃腸炎の発生状況は、

鹿屋保健所管内からは41名（定点当たり報告数 8.20）の報告がありました。

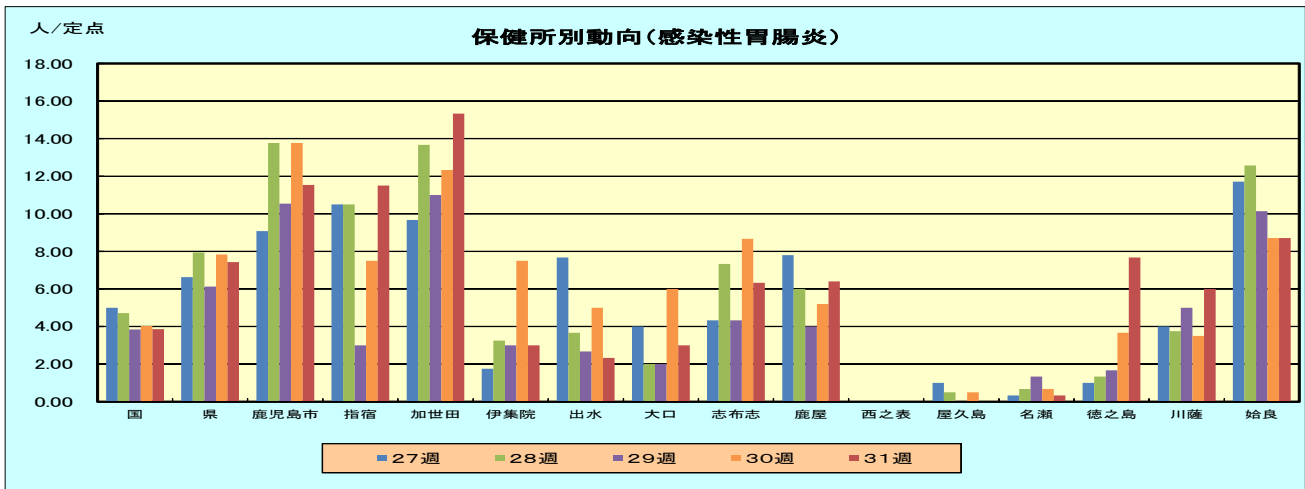
志布志保健所管内からは14名（定点当たり報告数 4.67）の報告がありました。

年齢別では、1歳が最多でした。

（感染性胃腸炎一図1）※第32週は鹿屋・志布志のみ掲載



（感染性胃腸炎一図2）県内保健所別感染性胃腸炎報告



## 薬剤耐性アシネトバクター感染症について

鹿児島県内の医療機関において、薬剤耐性アシネトバクター感染症等の院内感染疑い事例が報告されました。

日常生活において健康な人への感染はほとんど心配ありませんが、医療機関においては院内感染対策の徹底をお願いします。

（参考）

・多剤耐性アシネトバクターについて

アシネトバクターは土壌や河川水などの自然環境中に生息する環境菌で、通常は無害です。

多剤耐性アシネトバクターは通常の治療に使用する抗菌薬がほとんど効かなくなっている菌のことで、全く治療の手段がないわけではありません。

・予防と対策について

（日常での対策）

健康な人への感染はほとんど心配ありませんが、一般的な感染症対策として、砂遊びや水遊びのあとは普通の石けんで十分手洗いを行ってください。

特に、入院している方を見舞う場合は、病室に入る前後で手洗いを行うようにしてください。

（病院の対策）

アシネトバクターは環境中で長期間生存するため、菌が付着した医療器具を使用することにより感染を起こす可能性があります。また、手洗いが不適切な場合、手指の接触により感染が広がる恐れがあります。

そのため、院内での環境を清潔に保ち、医療器具の消毒や手洗いを徹底することが重要です。